

演題

幕末の蝦夷地における 荘内藩の功績

ロシアの南下により北方の緊張が高まった幕末、幕府から命を受け荘内藩（山形）は、副奉行、物頭及び足軽等の藩士らを派遣し、ハママシケ（現在の石狩市浜益区川下）に本陣屋を設け蝦夷地の警備に当たった。

慶応4年（1868）戊辰戦争の勃発による藩士らの総引き揚げにより蝦夷地警備は終わることになるが、農地の開墾開拓や当時のニシン漁場経営の改革及び後の屯田兵制のさきがけとなる新兵制を目指すなど荘内藩が後世の北海道に残した功績を辿る。

平成30年(2018年)

2月9日(金)

午後2時~4時

- 場所：かでの2・7ビル 710号会議室
(札幌市中央区北2条西7丁目)
- 受講料：保護協会会員 500円
非会員 700円
- 申込み：(一財)北海道文化財保護協会
電話・Fax 011-271-4220

講師：佐藤 睦 氏
(荘内藩陣屋研究会副会長)

略歴

昭和16年（1941）浜益郡浜益村川下に生まれる
昭和39年（1964）札幌市琴似町の車両工場に就職
昭和44年（1969）第2次新産業都市指定の福島県郡山市に転勤
平成19年（2007）定年退職し石狩市浜益区川下に移住

